

# 小学校第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元名：「国際人になるために」

指導者 熊野町立熊野第一小学校 寺川 千鶴

- 1 日 時 令和6年2月13日(火) 5校時
- 2 場 所 6年3組教室
- 3 学年・学級 第6学年3組(26名 男子14名 女子12名)



## 単元について

情報通信技術の進展、交通手段の発達による移動の容易化、市場の国際的な開放等、グローバル化の進む現代においては、各国が相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなっている。このような時代に生きる者として、自分や自国のことだけを考えるのではなく、世界を一つの共同体ととらえ、世界共通の価値観や世界規模の課題に対応する姿勢を育むことは欠かせない。そのために、児童は、世界に関心を向け、様々な国について知ることから始める必要があると考える。しかし、熊野町内の外国人は全町民の1%にも満たず、児童が日常的に外国人と関わったり、外国の文化に触れたりする機会は乏しい。また、児童がメディアを通して得る外国の情報も、ポップカルチャーなどの一面的なものになっている。

そこで本単元は、世界のさまざまな国の文化に触れたり、開発途上国の存在や国の格差を知ったりする体験的な学習によって、これまでなじみのなかった国へ関心を向け、課題に気付く活動から始める。そして諸外国特有の文化や、多様な価値観を肯定的に受け止めると同時に、未知の世界を知ろうとする意欲の醸成につながる学習活動を設定するものである。これまでの教科の学習において児童が自らの生活に引き付けて関心を向けた、「選挙権」、「防衛・軍事」、「教育」、「税制」などのいくつかの焦点を当て、様々な国の共通点や相違点を見付けながら、よりよい暮らしとはどのようなものであるかを模索する活動を中心に据えることで、グローバルな視点で課題を解決しようとする態度の素地を養うことができると考える。また、諸外国の暮らしを複数の視点から見たり、広い視野でよりよい暮らしについて考えたりすることで、自分たちのこれからの生活の中でも、多角的・多面的に物事を見ることができるようになると考える。

この単元の学習が、他国で起きていることを、他人事ではなく自分にもつながることと捉えて関心をもち、すぐには解決できそうにないような世界規模の課題であっても、理想を掲げ続け、解決に向けて何ができるかを考え行動できる国際人になるための第一歩となると期待できる。なお、中学校への進学を控えたこの時期に、自己の生き方を考えるよい機会にもなると考え、本単元を設定した。

## 児童の実態

総合的な学習の時間の前単元は、これまで熊野町内にとどまっていた視野を広げて、広島県で生活する者として課題設定するところからスタートした。広島県ならではのことを知りたい、調べたいという児童の思いから、「原爆や平和について調べ、全ての人が平和に生きるためにどうすべきか考える」という課題を立て、原爆資料館見学、平和記念公園の碑めぐり、外国人観光客への平和や戦争に関する意識調査を行った。この「ヒロシマ人として」の学習を通して、日本は平和主義・非核三原則を掲げているが、他国では核保有しているなど、国によって倫理観・価値観が異なることに気付いた。また、平和に生きるということは、ヒロシマだけでなく世界全体に関わる課題であることを実感した。さらに、G7サミットの広島県開催、ロシア・ウクライナ戦争の影響による小麦の価格高騰など、世界と日本の結び付きを知るにつれ、広島県から、日本、世界へと関心を広げている。この学習前は、「平和とは」という問いに対して、多くの児童が「戦争をしない安心安全なこと」と答えていた。しかし学習後はそれらに加えて、「仲良くする、協力する、交流する、苦しい思いをしない、みんなが平等、学校に行ける、きれいな水が飲める」などと答えるようになるなど、児童の平和に対する捉え方は、自分の生活とつながり、広がり、深まりつつある。

また歴史学習で学んだ、ほんの一部の者にしか与えられなかった選挙権や、男子限定の徴兵制度、差別され続けた人々の存在、日本にとって不平等な条約など、人権を尊重しているとは言い難い様々な史実

に対して素直に抵抗感や疑問をもつようになってきた。それとともに、いつの時代も人々がよりよい暮らしを目指して歴史を積み重ねてきた結果、今があることを実感している。

一方で、ほとんどの児童は、外国についての知識が少ない。特に開発途上国については、国名すら知らず、平和記念公園でインタビューした外国人も欧米からの観光客が主で、開発途上国の人に出会うことは難しかった。さらに、日本は戦争をしないから平和だ、日本の食べ物はおいしいといった理由で、日本を住みよい国と考えている児童も多く、核の脅威や我が国の食料自給率の低さを耳にしたことはあるものの、自分事の課題として理解できているとは言い難い。

次の表は、9月初旬に、総合的な学習の時間と育成を目指す資質・能力に係る事項について行ったアンケート調査の結果である。

質問内容	肯定的回答		否定的回答	
	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
	理由として挙げた主なキーワード（人数）			
①総合的な学習の時間が好きか。	3名 12%	15名 58%	7名 27%	1名 4%
	知る(10)、調べる(5)、協働(4)		まとめる(5)、調べる(4)、表現(3)	
②グループやクラスの友達と一緒に協力して、探究活動をするのは好きか。	12名 46%	8名 31%	6名 23%	0名 0%
	広がり・深まり(7)、楽しい(5)、自信・心強い(5)		関わり(2)	
③クラスや学年で自分の考えを発表したり、表現したりすることは好きか。	3名・12%	4名・15%	12名・46%	7名・27%
	交流(3)、おもしろい・好き(3)		恥ずかしい(7)、苦手(3)	
④表現するときに、伝える相手や目的を意識し、工夫することができているか。	3名・12%	10名・38%	9名・35%	4名・15%
⑤学校以外の方（ゲストティーチャー・地域の方など）とつながりながら学ぶことは好きか。	5名・19%	17名・65%	3名・12%	1名・4%
	知れる・学べる(14)、関わり(3)		緊張(1)	

①の総合的な学習の時間が好きかという問いに対して、7割の児童が肯定的、3割の児童は否定的な回答をしている。肯定的な回答の理由として、新たな知識を得られることや友達と一緒に活動できることを挙げており、②の協働的な活動を好きと回答した児童が8割弱いることから、これまでの総合的な学習の時間に経験した、協働的な活動によさを感じていることが分かる。一方、否定的な回答の理由としては、まとめたり表現したりすることの苦手意識や難しさを挙げている。これは③の発表したり表現したりすることについて7割強の児童が否定的な回答をしていることにも結びつく。④については、日頃から積極的に挙手して発言する児童は肯定的な回答を、そうでない児童は否定的な回答をしている。表現すること自体に恥ずかしさを抱いている児童が多いため、工夫をするところまで意識が向かないことがうかがえる。⑤では、慣れない人との交流を苦手とする児童がいるものの、84%は学校以外の人と関わりながら学習することを好きと答えている。前単元での外国人にインタビューする活動においては、「緊張したが話せて嬉しかった」という感想が多くあり、碑めぐりガイドボランティアの方との会話を楽しむ姿も見られた。物怖じせずに学校以外の方と関わることのできる児童は多いと感じる。

このようなことから、グループで協力しながら調べたり、友達と意見を交わしたりする活動を多く取り入れ、自分とは異なった考えに出合わせ、自分の考えを広めたり深めたりさせたい。また調べたことや自分の考えを、タブレットを活用してまとめさせることで、書いたり話したりすることに対する抵抗感を下げ、表現することに自信をもたせたい。

## 単元の指導および協働的な学びの場の設定について

本単元の課題の設定場面では、JICA 中国を訪れ、様々な国の民族衣装を着たり楽器に触れたり、料理を食べたりして、多様な文化に触れさせる。また、食料、教育、医療などにおいて国の間に格差があることを体感できるワークショップを通して、自分たちが当たり前と思っている日々の生活が、世界規模で見るとかなり恵まれていることや、貧しい暮らしを強いられている人々が多くいることに気付かせたい。その上で、平和の概念を捉え直した前単元の学習から接続させ、児童の考える「平和とは言えない世界の現状」から課題を見付けさせたい。

情報収集の場面の初めに、「G7広島サミット」を模した、「G7くまいちサミット」を開き、よりよい暮らしとはどのようなものであるかを考えて、世界の人々のよりよい暮らしの在り方を「G7くまいちサミット宣言」としてまとめるという流れを説明し、活動に見通しをもたせたい。その上で、先進国や開発途上国など生活水準の異なる国を取り上げ、グループごとに諸外国の暮らしについて調べさせる。よりよい暮らしについて考えるために、現状の暮らしの良さだけでなく可能な限り困りごとも含めて紹介できるように、情報収集させたい。グループで協力して集めた情報は、G7くまいちサミットにおいて聞き手に分かりやすく伝えられるように、スライドやドキュメントにまとめさせる。

整理・分析の場面では、お互いに集めた情報を、よりよい暮らしの在り方を考える材料として生かす方向性で、G7くまいちサミットを開き共有させる。初めて知る外国の暮らしに対して、児童は驚きや拒絶、羨望などの思いを抱くであろう。それらの率直な感想や意見も大切にしながら話し合わせることで、自分とは異なる友達の多様な考えに触れさせ、よりよい暮らしとはどのようなものか模索して自分の答えを生み出すための協働的な学びの場としたい。表現する力を高めるために、G7くまいちサミットの1つの会場に参加するのは、同じグループからは1人か2人とし、個人発言の機会を設ける。よりよい暮らしとは、独りよがりなものではなく、前単元の終わりに児童が捉え直した平和のような、世界のみんなにとってのよりよい暮らしであるという視点からずれないように、常に意識させたい。

まとめ・表現の場面では、個人で考えたよりよい暮らしの在り方と、その理由をまとめさせる。多様な価値観を尊重するという視点はグローバル化においても欠かせないことから、それぞれのよりよい暮らしを思い描かせたい。発表の場においては、お互いの考えたことを否定せずに認め合うことをルールとし、多様な価値観があることや、それらを尊重し合うことの大切さに気付かせたい。最後に、意見交流をふまえて考えたよりよい暮らしの在り方と単元の初めに考えたよりよい暮らしを比較させることで、思考の広がりや深まりを実感させ、協働的な学びのよさと、自己の成長に気付かせたい。

#### 【単元の目標】

- 世界のさまざまな国の特徴や現状について知り、それぞれを比較し共通点や相違点を見付け、友達の多様な考えを生かして世界のみみんなのよりよい暮らしの在り方を考える活動を通して、グローバルな視点で課題を解決しようとする態度の素地を養うことができる。

#### 【評価規準】

知識・技能 わかる・できる力	思考・判断・表現 自分の考えを表現する力	主体的に学習に取り組む態度	
		協働する力	振り返る力
①世界には解決しなければいけない問題が多くあることを理解している。 ②調べたことや考えを、ICT機器を使って友達と共有している。 ③思考が広がったり深まったりしたのは、諸外国の暮らしを知ることや、友達の意見をもとによりよい暮らしの在り方について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①貧困や格差など、世界の問題について課題を設定するとともに、解決に向けて見通しをもっている。 ②課題の解決に必要な情報を多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。 ③収集した情報を比較したり、それに対する友達の意見を生かしたりしながら、よりよい暮らしの在り方を考えている。 ④自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすく表現することができる。 <b>【自分の考えを表現する力】</b>	①貧困や格差など、世界の問題に関心を持ち、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②友達の多様な考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 <b>【協働する力】</b> ③グローバルな視点で課題を解決しようとする態度の素地を養っている。	

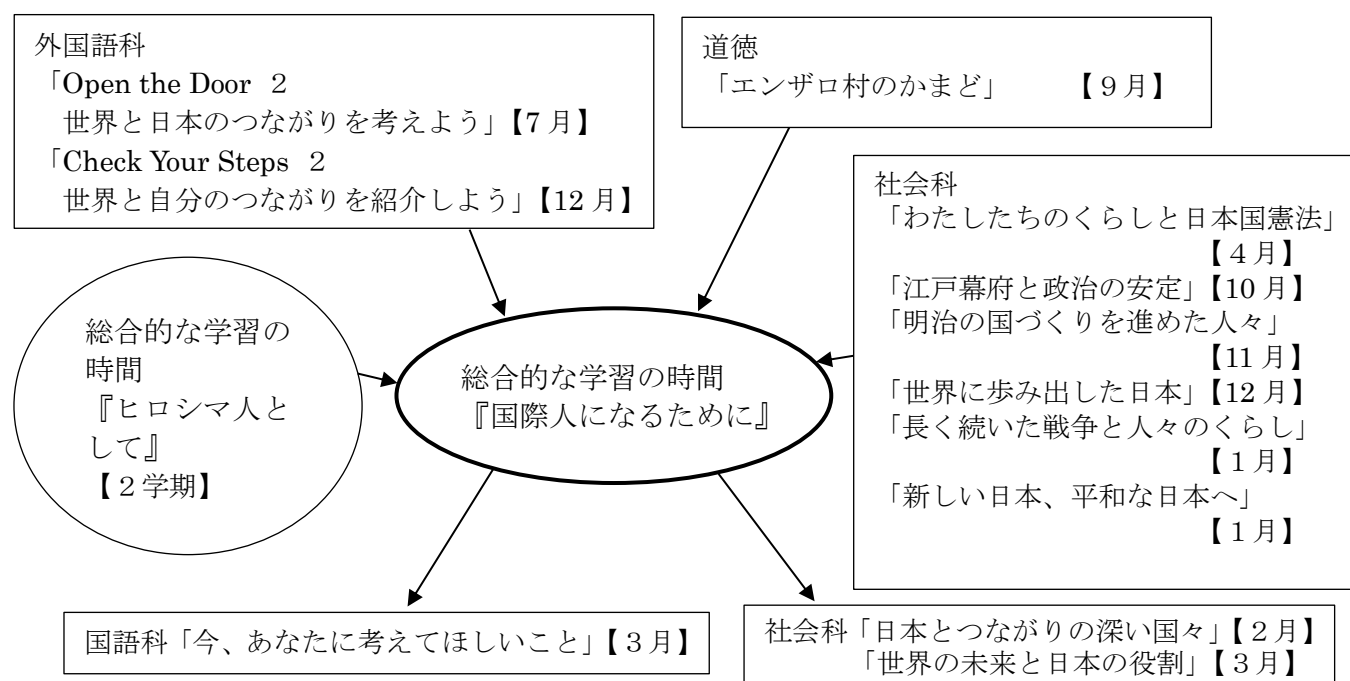
## 本単元で育成を目指す資質・能力のルーブリック

	Aの例	B	Bに到達させるための手立て
自分の考えを表現する力	・世界の人々がよりよく暮らすための在り方を、多面的にとらえて書いたり、友達に伝えたりすることができる。	・世界の人々がよりよく暮らすための在り方を、書いたり、友達に伝えたりすることができる。	・考えを共有する時間を設ける。 ・安心して自己表現できるような環境を設けたり、話し合う機会を工夫して設けたりする。
協働する力	・友達の多様な考えの中から、自分の考えとの共通点や相違点を見付け、それらの良さを生かしながら、よりよい暮らしの在り方を考えている。	・友達の多様な考えの中から、自分の考えとの共通点や相違点を見付け、よりよい暮らしの在り方を考えている。	・自分の考えと同じところや違うところを探しながら友達の発表を聞くように、声をかける。 ・どの国の特徴や、誰のどの考えに共感したかを尋ね、自分の考えに取り入れるよう伝える。

## 本時で育成を目指す「自分の考えを表現する力」のルーブリック

	Aの例	B	Bに到達させるための手立て
自分の考えを表現する力	・世界の人々がよりよく暮らすための教育の在り方を、多面的にとらえて理由とともに書くことができる。	・世界の人々がよりよく暮らすための教育の在り方を、理由とともに書くことができる。	・各国の教育の特徴を示したスライド資料をまとめたものを与え、考える手がかりにさせる。 ・思考の整理を手助けするドキュメントに、書かせる。

## 他教科等との関連



## 指導と評価の計画

	学習内容『国際人になるために』 (時数：14 時間)	主たる評価規準
一	<p><b>課題の設定</b></p> <p>○世界の問題に気付き、世界のみみんなのよりよい暮らしのために欠かせないことを挙げる。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JICA 中国で世界各国の異文化に触れる。</li> <li>・ 世界にはさまざまな課題があることに気付く。</li> <li>・ 世界全体で見ると、各国間に大きな格差があることに気付く。</li> <li>・ よりよい暮らしのために欠かせないテーマをウェブマップに表し、その中から最も重要だと思うもの、考えていきたいことに絞る。(選挙権、軍事・防衛、教育、税制など)</li> </ul>	<p><b>知識・技能</b></p> <p>①世界には解決しなければいけない問題が多くあることを理解している。</p> <p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>①貧困や格差など、世界の問題について課題を設定するとともに、解決に向けて見通しをもっている。</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>①貧困や格差など、世界の問題に関心を持ち、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p>
<b>世界の人々がよりよく暮らすために、大切にしたいこととは何だろう？</b>		
二	<p><b>情報の収集</b></p> <p>○諸外国の暮らしについての情報を得る。(6)</p> <p>◎G7広島サミットの目的を思い出し、G7くまいちサミットを開いてG7くまいちサミット宣言(世界の人々がよりよく暮らすために、目指したいこと)を作ることを知り、情報収集の目的を明確にする。</p> <p>◎グループで一つの国を担当し、その国の暮らしについて調べてまとめ、G7くまいちサミット宣言案を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような暮らしをしているのか。</li> <li>・ その国の暮らしの、よいと思う点。</li> <li>・ その国の暮らしの、もっと良くなればよいと思う点。</li> <li>・ G7くまいちサミット宣言案を作る</li> <li>・ 国ごとに、テーマ(軍事・防衛、教育)一つにつき、スライド一枚にまとめる。</li> <li>・ 説明原稿を作る。</li> <li>・ 説明の練習をする。</li> </ul> <p>◎G7くまいちサミット(全4会場)で、調べた国の暮らしの特徴と、グループで作ったG7くまいちサミット宣言案を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発表を聞きながら感じた率直な感想や意見を出し合う。</li> <li>・ 各国の情報を比較する中で、さらに知りたくなったことを調べる。</li> </ul>	<p><b>思考・判断・表現</b></p> <p>②課題の解決に必要な情報を多様に収集し、種類に合わせて蓄積することができる。</p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>②調べたことや考えを、ICT 機器を使って友達と共有している。</p>
三	<p><b>整理・分析</b></p> <p>○集めた情報を参考に、世界の人々のよりよい暮らしの在り方を、テーマごとに考える。(2)</p> <p>◎個人でG7くまいちサミット宣言案を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各国の暮らしの特徴と、各グループで作ったG7くまいちサミット宣言案を確認し、参考にする。</li> </ul>	<p><b>主体的に学習に取り組む態度</b></p> <p>②友達の多様な考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。【協働する力】</p>

	<p>◎サミット会場ごとに、G7くまいちサミット宣言を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人で作ったG7くまいちサミット宣言案を発表し合い、それをもとに話し合っって考える。</li> <li>・多様な考えに触れる。</li> </ul> <p>◎学級で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全4会場のG7くまいちサミット宣言と、それを宣言とした理由の、共通点や相違点を知り、認め合う。</li> </ul> <p>【本時2/2】</p>	<p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>③収集した情報を比較したり、それに対する友達の意見を生かしたりしながら、よりよい暮らしの在り方を考えている。</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>②調べたことや考えを、ICT 機器を使って友達と共有している。</p> <p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>④自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすく表現することができる。</p> <p>【自分の考えを表現する力】</p>
四	<p><u>まとめ・表現</u></p> <p>○振り返る。(2)</p> <p>◎単元を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・G7くまいちサミットで考えたよりよい暮らしの在り方を、日本の暮らしと照らし合わせ、自分たちの生活を振り返る。</li> <li>・世界の暮らしを知り、よりよい暮らしを考えたことを通して、何を学んだか。</li> <li>・単元の初めの自分と、今の自分の違い。</li> <li>・自分の考えや思いを伝え合う。</li> </ul> <p>◎本単元を含め、小学校での総合的な学習の時間における活動や学びを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動を行った。</li> <li>・身近な地域から世界全体へと、視野を広げてきた。</li> <li>・学びをどう生かしていくか、どう生きていきたいか。</li> <li>・自分の考えや思いを伝え合う。</li> </ul>	<p><u>主体的に学習に取り組む態度</u></p> <p>③グローバルな視点で課題を解決しようとする態度の素地を養っている。</p> <p><u>思考・判断・表現</u></p> <p>④自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすく表現することができる。</p> <p>【自分の考えを表現する力】</p> <p><u>知識・技能</u></p> <p>③思考が広がったり深まったりしたのは、諸外国の暮らしを知ることや、友達の意見をもとによりよい暮らしの在り方について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。</p>

## 本時の学習（12/14 時間）

### 本時の目標

世界の人々がよりよく暮らすための教育の在り方について、考えることができる。

(1) 準備物：資料、電子黒板、タブレット

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項 ◎支援を要する児童への手立て	評価規準 (評価方法)
<b>1 課題の設定</b>		
○前時までの学びを振り返るとともに、本時の課題に迫る。	・これまでの学習を振り返るとともに、教育の在り方について考えることを確認する。	
<b>2 めあての確認</b>		
○めあてを確認する。	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <b>【めあて】</b> 「G7くまいちサミット」を開いて、教育におけるG7くまいちサミット宣言を作ることができる。         </div>	
<b>3 自分の考えをもつ</b>		
○個人で、G7くまいちサミット宣言案を作る。 ・日本と似ている国がある。 ・国によって違いがある。 ・世界には、学校へ通えない子供が多くいるんだな。 ・全ての子供が学校に行けるようにすることを目指したい。理由は、学校に行かないままだと、読み書きや計算ができないから。(B評価)	・資料から共通点や相違点を見つけるよう、声をかける。 ・世界の人々の暮らしをよりよくするという視点を押さえ、個人の欲に偏らないようにさせる。 ・よりよい暮らしの在り方について、なぜそのような考えに至ったのか、理由も書かせる。 ◎理由付けをさせるために、宣言とは別に、理由を記入する欄を設ける。 ◎各国の暮らしの特徴と、各グループで作ったG7くまいちサミット宣言案をまとめたスライド資料を与え、考えるヒントにさせる。	<u>思考・判断・表現</u> ④自分の考えを、相手や目的に応じて分かりやすく表現することができる。 (世界の人々がよりよく暮らすための教育の在り方を、理由とともに書くことができる。) <b>【自分の考えを表現する力】</b>
<b>4 協働的な学びの場</b>		
○G7くまいちサミットを開き、各会場ごとにG7くまいちサミット宣言を作る。 ・同じ国を担当した各グループから1、2人ずつが1つの会場に集まる。 ・個人で作ったG7くまいちサミット宣言案を発表し合う。 ・G7くまいちサミット宣言を作る。 ○学級全体で交流する。	・発表者の話を聞くことに集中させるため、メモをとらなくても後で確認できるように、発表内容をタブレットに表示する。 ・それぞれのG7くまいちサミット宣言案の言葉のみに引きずられないように、理由に着目して考えるよう促す。 ・世界の人々がよりよく暮らすために、どんな教育の環境が必要か、教育によってみんながどうなっていくのがよいかなどを考えさせ、宣言として意見をまとめさせる。	
<b>5 まとめを行う</b>		
○友達の見聞き、多様な価値観があることを実感する。	・よりよい暮らしの在り方についての考えは、各々で共通点や相違点があることに気付かせ、お互いに認め合うことの大切さを伝える。	

## 6 本時の振り返り

○本時の振り返りをする。 ・タブレットに記録する。 ・具体的な言葉で発表する。	・振り返りの視点 (①自分で G7くまいちサミット宣言案を考え、伝えることができたか。②グループで話し合うこと のよさを実感できたか。)を示す。
---	---

め

「G7くまいちサミット」を開いて、  
教育におけるG7くまいちサミット宣言を作ることができる。

【世界の人々がよりよく暮らすために】

ウェビングマップ

〈振り返り〉

- ①表現…理由も付けて、考えを伝えることができた。
- ②協働…話し合うことで、案よりもいい宣言を作れた。

## 参考文献

- ・文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的な学習の時間編』 東洋館出版社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター (2020) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 総合的な学習の時間】』 東洋館出版社
- ・文部科学省 (2021) 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 (小学校編)』 アイフィス
- ・池田香代子 (2002) 『世界がもし 100 人の村だったら』 マガジンハウス
- ・石井光太 (2015) 『幸せとまずしさの教室～世界の子どものくらしから～』 少年写真新聞社
- ・黒柳徹子他 (2015) 『世界を平和にするためのささやかな提案』 河出書房新社
- ・太田雅幸 (2016) 『話したくなる世界の選挙～世界の選挙をのぞいてみよう～』 清水書院
- ・日本国際理解教育学会 (2021) 『国際理解教育を問い直す-現代的課題への 15 のアプローチ-』 明石書店

### 【参考 Web ページ】

- ・文部科学省『グローバル化と教育に関して議論していただきたい論点例』  
([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/kokusai/004/gijiroku/attach/1247196.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kokusai/004/gijiroku/attach/1247196.htm)) (最終閲覧日：2023 年 12 月 16 日)
- ・キッズ外務省 (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/kids/index.html>) (最終閲覧日：2024 年 1 月 1 日)
- ・独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
(<https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/12262440.pdf>) (最終閲覧日：2024 年 1 月 11 日)



# 単元構想シート 熊野町立熊野第一小学校

校種・学年 小学校・第6学年

教科等 総合的な学習の時間

単元(題材)名 国際人になるために

## ① 本質的な問い (何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

世界の人々が幸せに暮らすために、自分に何ができるのだろうか？

## ② 単元を貫く問い (単元を通して考え深めていく「問い」)

世界の人々がよりよく暮らすために、大切にしたいこととは何だろう？

## ③ 個別の問い (単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等)

- ・世の中は平等？
- ・よりよい暮らしに欠かせないものは？
- ・よりよい暮らしのために選挙権、軍事・防衛、教育、税制などは、どうあるべきか？

### 単元計画の 構想を立てる

- 1 外国の異文化に触れ、世界には格差があることを知り、課題を見付ける。
- 2 諸外国の人々の暮らしについて調べる。
- 3 目指したい、世界の人々のよりよい暮らしの在り方を考える。
- 4 各自の考えを発表し合い、多様な価値観を認め合う。